



平成21年8月8日(土)に本学において第2回オープンキャンパスが開催され、総勢1200人程の高校生や保護者の方がご来場されました。写真は作業療法学科体験プログラム「作業活動体験・革細工作成」の様子で、参加者の方は学生スタッフの説明を聞きながら、真剣な表情で革細工作成に取り組んでいました。

- 学長・副学長メッセージ
- 2010年4月
医療経営管理学部 医療情報管理学科新設!
- 医療・保健・福祉系大学図書館の
電子コンテンツについて
- 基礎ゼミ 学生・教員交流会紹介
- 連携教育学生セミナー開催報告
- CAMPUS NEWS
- 第9回伍桃祭(大学祭)案内
- 受験生のみなさんへ

チーム医療と医療福祉連携の実践を目指す連携教育

本学は開学9年目を迎え、現在3学部8学科および大学院修士課程・博士後期課程の学生を含めると、約2,500名の学生が学んでいます。この保健医療福祉分野の学生は、「QOLサポーター」として、自らの資質を向上することによって利用者・対象者・患者のQOLを高め、豊かにすることを目標としています。

超高齢社会となったわが国で、高齢者の医療と福祉に関する多数の多様なニーズに、ひとりの専門職では対応しきれなくなりました。イギリスにおいて過去約10年間発展してきた「専門職間連携教育」(連携教育、Interprofessional Education, IPE)について、本学では開学以来取り組んできました。この「連携教育」は、将来、卒業後にチーム医療、医療福祉連携を現場で実践するためには学部教育において必須であり、日本でも最近、非常に注目されはじめました。

「連携教育」とは、専門職を目指す学生がお互いからお互いについて、一緒に学ぶことです。そして教育内容は、課題をチームで解決する新しい能力を修得することです。それはチーム協働力を学ぶことで、1、対象者・事例を中心にチームで取組む、2、他学科の学生とチームで話し合うコミュニケーション能力を修得する、3、お互いに理解しあい、パートナーとして尊重

する、4、お互いの専門性と共通性とを理解して活用する、5、そして良いチームワークを作り上げようとする、これはリーダーシップとメンバーとして協働することが必要です。これらの5つのことによって、得られる新しい能力とは3つの連携推進力があると思います。それは保健医療福祉分野の課題を認識する力、課題を整理して調整する力、その課題に対する対応・対策を実践する力、これが新しい能力として連携教育を実践することによって得られます。

この目的のために、新潟医療福祉大学ではカリキュラムをさらに発展させ、平成21年度から、連携教育の授業科目として保健医療福祉基礎科目群をコアカリキュラムとして、1年次から4年次まで配置しました。その到達目標は学年に応じて1年次 理念共有、2年次 課題認識、3年次 連携創造、4年次 協働実践です。この4年次の科目には連携総合ゼミがあり、医療モデルから予防、福祉モデルまで種々のモデルによる各種の事例教材(モジュール)を作成し、他学科の学生と一緒に学ぶことが出来るようになっていきます。

学内のカリキュラム編成から実際の現場協働までもっていくために、「日本保健医療福祉連携教育学会」の設立を約50名の発起人の賛同を得て提案し、

昨年11月に第1回学術集会在開催されました。そして本年度には本学が代表校として、この学会に属する5大学コンソーシアムによって「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」の支援を受けIPEモジュールを共同開発することになりました。将来は、そのIPE教育を受けた卒業生が、リーダーシップを発揮して「チーム医療」と「医療福祉連携」とが推進できる新しい能力を獲得したことを示す認証制度まで、将来実現することを期待しています。本学ではこのような考えの下で連携教育を実践しております。このような新しい能力を身につけ、現場協働が強力にできる「QOLサポーター」が、多数巣立っていくことを期待しています。



学長／医療福祉学研究所長／教授
高橋 栄明

専攻 整形外科一般、脊椎外科学、骨腫瘍学、骨粗鬆症の保存的治療及び手術的治療の開発
学位 博士(医学) **職歴** 新潟大学名誉教授、前新潟大学医学部整形外科科学教室教授、日露医学交流医療交流財団評議員、日本骨粗鬆症学会前理事長、日本保健医療福祉連携教育学会理事長、新潟医療福祉学会会長

副学長の役割について考えるー忍びよる組織シニシズムを打破したいー

学校教育法第58条第3項には「学長は公務を掌り、所属職員を統督する」と規定されており、同法第58条第4項には「副学長は、学長の職務を助ける」と規定されている。この条文に従えば、副学長は文字通り学長の補佐役ということになる。

一般に、組織が大規模化すればするほど成員相互のコミュニケーションは難しくなり、みんなが何を考えているかわからないという、相互の無智がうまれ、そしてこの無智はやがて無関心へと拡大されていく傾向がある。本学も2学部5学科体制から3学部8学科体制へと組織規模は次第に拡大しつつある。まだ完成年度を迎えていない学科もあるが、いずれ全ての学科が完成されたあかつきには、学生、院生、教職員を合わせて3000人近い人員を擁する大組織となる。このように大きくなった組織を学長1人で統督するには自ずと限度があり、どうしても補佐役が必要となることはいうまでもない。他の大規模な大学には学長室という学長のスタッフを配した組織をもつものも少なくない。しかし、本学にはそのような組織は未だなく、どうしてもラインの一員である副学長や学部長が学長を補佐することになる。したがって補佐役の力量も限られたものとならざるをえない。

英国の社会学者ピーターは「仕事はそこに働いている人の時間をうめつくす量にまで拡大し、組織はあらゆるポストが無能な人間によって占められて安定する」と、大規模組織が人と手続が増えるにつれて次第に非効率になっていくことを皮肉った。たしかに、組織は有能な人間を必死に探しているから、少しでも有能性を残している人間には常に期待と昇進の圧力がかかることになる。そして、各人は彼が無能力となる高さまで昇進していくことになり、その結果、組織は次第にこの無能力レベルに達した人間で埋まることになる。したがって、どんな組織も定期的にその手続きやポストや事務を再点検しないと非効率性は益々進展することになる。

組織は大規模化するにつれて有能な人を無能にしてしまう力を常に内包している。そして、この無能レベルに達した人々は組織というものをまじめに相手にすることに一種の愚かしさを感じ始めることになる。こうした傾向を社会学者加藤秀俊氏は、組織シニシズム(組織冷笑主義)と呼んでいる。この組織シニシズムを打破する方略について若干言及してみたい。

とりあえずは、組織内のコミュニケーションを良くし、とくに肩書きや年齢にか

かわりなく、お互いに言いたい放題がゆるされるような組織を構築し、人間関係を豊かにすれば組織に対する無関心も払拭され、組織シニシズムの蔓延をくい止められるのではないかと考えている。みんな萎縮し、黙って、言いたいこと言えない組織にははいけない。もしそんな組織になってしまったら、スケープゴーツを数多く生み出してしまい、人々は誰に対しても面従腹背といった行動をとり始めるに違いない。

副学長として、学校教育法に則り、学長の職務を補佐しながら、組織の非効率を改善し組織シニシズムを打破すべく、自分が無能力になるまで努力したいと思っている。



副学長／社会福祉学部長／教授
米林 喜男

専攻 医療社会学、家族社会学 **学位** 修士(社会学) **職歴** 順天堂大学医学部助教授、日本保健医療社会学会会員、日本学術会議社会学研究連絡委員会委員(第14期・第18期)、WHO主催国際歯科保健比較調査企画委員会副委員長、新潟県青少年健全育成審議会会長、北新潟地域づくり学会(はまなす会)会長、三条市地域福祉計画策定委員会委員長等歴任

国際交流のすすめ

この4月より主に「国際交流」担当の副学長として任命されています。私は元々大学のマネジメントの方で設立以来関わっていて、現在も副理事長の任務を継続するかたわら、上記の副学長として教学の仲間入りをさせて頂きました。

本学も開学以来9年が経ち、来年は10周年を迎えます。この機会に「国際交流」を本学の中に本格的に根付かせたいと考えています。もちろん今迄も「国際交流」は学科ごとに行われてきましたし、担当教員の多大な努力により着実に成果をあげて来たところではあります。しかしながら今後は、学科、学部はもちろん、全学的にシステムを構築しながら、より本格的な実現を目指そうとするものであります。まずは近い将来、本学の卒業生の多くの者が、「国際交流」を在学中に実際に体験して社会に出ることを目標にしたいと思っています。具体的に言うと、一方では海外の様々な国に本学の姉妹・友好大学が存在し、そこに本学の学生達がグループで短期研修をしたり、長期で留学したりというイメージです。また他方では、本学の大学院を中心に海外からの多数の留学生が教室で熱心に学んでいる、そしてそのキャンパスで、日本人学生とも活

QOLサポーター道を極める！

新潟大学を定年退職し、副学長として本学に赴任しました。赴任した4月1日、その日のうちにすばらしい体験をしました。それはキャンパス内で多くの学生諸君から「おはようございます」、「こんにちは」と声を掛けられたことでした。私は久しぶりに感動しました。さっそくこの感動を高橋栄明学長に伝えたところ、本学の建学の精神である「QOLサポーターの育成」と関わっていることを知りました。将来優れたQOLサポーターとなるためにはコミュニケーションスキルが必要で、その第一歩として挨拶が取り入れられたとのことでした。

私は挨拶についてこだわりを持っていますが、それは初めての社会人教育をアメリカで受けたこと、その後帰国し約40年に亘る医学教育の経験に基づきます。

昭和43年、大学紛争で荒れる日本を脱出しアメリカでの卒後研修に旅立ちました。病院での皿洗いや実験動物の世話などで生活費を補うといった私の人生の中で一番苦労した時期でしたが、社会人として最初のステージをアメリカで学べたのは幸福でした。アメリカほど挨拶にうるさい国はありません。特に患者さんへの話しかけ方について次の二大原則をたたき込まれました。第一は患者さんの目線で話すこと。第二は自由質問形式で始めることです。YesとかNoと答えなくても良い質問をすることです。これらは当たり前のことですが、将来医師となったとき

発に交流している様子を想像してください。医療福祉の分野の中で、本学の各学部各学科が日本で最も国際化されたものの一つであり、最も国際交流が活発に行われているキャンパスであるということを実現したいと思います。そのため条件整備をさまざまな面で提案し、実施していこうと考えています。

「国際交流」は本学の理念である「QOLを支える人材の育成」に対し、大きな意味を持っています。本学では医療福祉の現場に就職することを将来の目標とする学生が圧倒的多数ですが、医療福祉の現場というところは、他の分野よりも「人間性」や「コミュニケーション力」が要求されると思います。それを養うには、「国際交流」は大変有効な方法論であります。つまり、「国際交流」には異文化コミュニケーションが必ず伴うわけです。文化・言語が違う人を理解し、またこちらの文化もわかってもらうという体験は、言い方を換えれば、立場が全く違う人を辛抱強く理解しようと



副学長／教授
渡辺 敏彦

専攻 国際交流、職業教育 **職歴** 学校法人新潟総合学園副理事長、学校法人大彦学園理事長、新潟県専修学校各種学校協会会長、新潟県私立学校審議会委員、新潟県私学振興会副理事長、全国専修学校各種学校連合理事、専修学校教育振興会評議員、新潟のちの電話後援会副会長、新潟商工会議所教育・福祉部会長、新潟陸上競技協会会長、にいがた青年海外協力隊を育てる会副会長、新潟日米協会副会長、新潟・フランス協会役員、新潟日独協会理事、国際ロータリー第2560地区2007-08年度バスタガ/ナター他

この原則を守ることで患者さんとのトラブルを防ぎ、引いては訴訟のリスクを減らすことができると教えています。

また医学教育で得た経験とは、学生時代に挨拶できるか否かでその学生の将来を予測できることです。挨拶はその学生の学業成績を超えた何かを持っているようです。卒業生の近況を聞くにつけ、このことが間違っていないことを実感します。この経験則は、私の確信に近いものとなっています。

ところで挨拶は言葉だけではありません。身振りによる挨拶、文書による挨拶、物を贈っての挨拶などいろいろあります。しかしこの中で将来優れたQOLサポーターになるためには何が最も重要なのでしょうか。私はやはり言葉による挨拶が重要だと思います。対象者(多くは患者さん)に会って最初に声を掛け、その反応の仕方で相手のQOL(満足度、コンプライアンスなど)を感じ取らねばなりません。ぜひ皆様はその技を習得するだけでなく、さらに「QOLサポーター道」を生涯かけて極めていただきたいと思っています。

サポーター道は挨拶に始まり、挨拶に終わると言っても過言ではありません。

最後に、挨拶について濫蓄を傾けましたので後学の参考にしていただきたいと思います。インターネットで「挨拶」、「語源」を検索し

一生懸命努力すること、そしてこちら側の立場をこれまた分かってもらうために全力を尽くすことは、この「国際交流」で端的に味わうことができ、そして、「コミュニケーション力」と「人間性」を養成することにつながると思っています。現代の学生の皆さんは、一般論として一時代以前よりは、世代的にコミュニケーション体験や様々な体験が不足がちであるといわれています。

本学の学生の皆さんには学生時代に自ら進んで「国際交流」を十分に体験して頂き、また、「人間性」と「コミュニケーション力」を磨いて頂いて、これからの日本の保健・医療・福祉分野の有為なQOLサポーターとして、巣立っていただくことを大いに期待しております。

ますと、禅宗で相手の悟りの程度を試みる問答を一挨一拶と言ひ、これが省略され挨拶となったとあります。しかしインターネットではあまり記載されてない怖い背景があるので紹介しておきます。「挨」は、(矢を持たない手で)背後から強く相手を押しつけることを意味します(漢字の旁の部分はムは農耕用鋤の形で、鋤を他人に上げて手元に無いことが原義。一般に「無」を表し、ム=無!)。「拶」は、相手にぎりぎり近づくことです(旁は毛の残った骸骨を表す)。どちらも悪い意味を持ち、お互いに前に出ようと相手を押しつけることのようにです。従って現在の用法は原義と全く異なっています(白川静・字統、平凡社)。

「挨拶」一つとっても奥が深いです。本学を目指す諸君が入学された暁には、また既に在学している諸君は今すぐに、QOLサポーターという「生活力(手に職を付ける)」だけでなく、自分が興味や関心を持った事柄についての歴史や文化などの知識を身に付け「人間力(人間としての総合的な魅力。ここでは特に知と実践の融合)」を涵養していただきたいと思っています。



副学長／教授
山本 正治

専攻 公衆衛生学、予防医学 **学位** 博士(医学)、M.P.H(テキサス大学) **職歴** ポストン大学医学部リサーチフェロー、新潟大学医学部教授、新潟大学大学院歯学総合研究科教授、新潟大学医学部長、新潟大学大学院歯学総合研究科長、新潟大学歯学系長、新潟県環境審議会会長、新潟県医療審議会会長、日本がん疫学研究会総会会長、日露医学医療交流財団国際シンポジウム機構長、日本衛生学会総会会長等を歴任

2010年4月 医療経営管理学部 医療情報管理学科新設！

医師不足対策として注目を集める「**メディカルクラーク**」の育成を軸に、**医療情報や医療経営についての高い専門知識・技術を有し、質の高い医療サービスの提供を支えるスペシャリストを育成!**



全国的な医師不足の問題や、質の高い医療サービスの提供に不可欠なIT技術の活用、また効率的な施設経営・管理など、現在、日本の医療は様々な課題を抱えています。こうした状況の中、国は医師不足対策として医師・看護師業務を分担する「**メディカルクラーク**」の普及や、電子カルテをはじめとする「**医療のIT化**」を主項目とする具体策を打ち出し、本格的な医療政策にも乗り出しています。

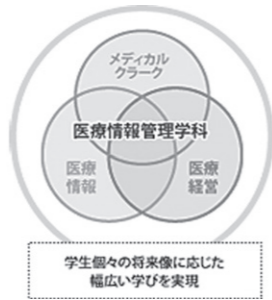
このように重大な転換期を迎えた日本の医療において、**メディカルクラーク**をはじめとする「**医療秘書・事務分野**」、また**医療の知識とコンピュータスキルをあわせ持つ「医療情報分野**」、そして**病院・福祉施設の効率的な経営・管理を担う「医療経営分野**」のスペシャリストの育成が強く求められています。

本学科では、こうした社会の要請に応えるべく、**メディカルクラーク**の人材育成に主眼を置き、さらに、「**医療情報分野**」「**医療経営分野**」に関わる幅広い科目を配置することで、目指す資格や将来像にあわせた学びを実現し、幅広いフィールドで活躍できる人材の育成を目指します。

1 教育の特徴

メディカルクラークの養成に必要な専門科目に加え、**医療情報や医療経営に関する幅広い科目を配置し、学生個々の目標に合わせた学びをサポート。**

保健・医療・福祉に関する高度な知識をベースに、診療報酬請求や接遇など「**メディカルクラーク**」の資格取得に対応する専門科目を配置しています。また、システム開発やプログラミングなど「**医療情報**」に関する専門科目や、会計や簿記、施設経営の「**医療経営**」に関する専門科目を幅広く配置し、学生個々が希望する資格や将来像に合わせ、科目を選びながら学ぶことができる環境を整えています。



目標とする資格	
● メディカルクラーク	● 医療秘書技能検定
● 診療情報管理士	● 診療報酬請求事務能力認定試験
● 医療情報技師	● 日商簿記検定試験
● 基本情報技術者(国家資格)	● 経営管理士
● ITパスポート(国家資格)	など

2 卒業後の進路

就職に直結する多様な資格取得と、保健・医療・福祉の総合大学で身につけた幅広い知識により、**医療福祉機関をはじめ、医療関連会社や一般企業など、様々なフィールドでの活躍が期待されます。**

● 病院・医院等の医療機関	● コンピュータ関連会社
● 保健・福祉施設	● 大学・専門学校などの教育機関
● 医療ソフトウェア関連会社	● 大学院進学後、研究者や指導者
● 保健所・自治体などの行政機関	● 一般企業
● 医療機器・福祉機器メーカー	● など

3 学びの環境

医療情報管理学科では、より高い実践力を身につけるための学内実習施設として「**バーチャルホスピタル実習室(仮称)**」の設置を計画しています。この実習室では、実際の病院を想定した受付、**医療事務室**、**診察室**などを配置し、各セクションで必要となるスキルについて実務に即して学ぶことができます。

● **受付**
病院や福祉施設などの顔となるセクション。受付対応での接遇や保険証の受け渡し、受診経路の案内、カルテの準備など、様々なケースについて学びます。

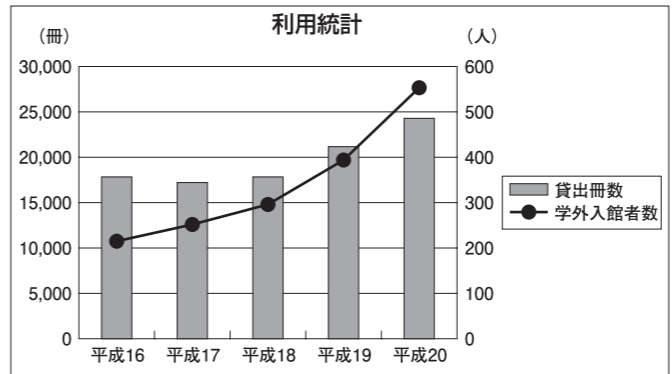
● **医療事務室**
病院事務の中心となるセクション。レセプトの作成・点検や診療情報の入力、電子カルテや医療システムの運用など、最新の医療情報システムについて学びます。

● **診察室**
メディカルクラークとして求められる、医師・看護師の業務補助や、各専門職との連携についてロールプレイングを通じて、実践的なスキルを身につけます。

医療・保健・福祉系大学図書館の紹介 ～主に電子コンテンツについて

● 図書館紹介・概要

本学図書館は大学の一機関として、学内構成員の「学習」「教育」「研究」に資することを使命とし、医療・保健・福祉に関係するコンテンツを収集・保存・提供する「**専門**」図書館です。平成13年の開学当初は圧倒的に資料が不足していましたが、情報の流通が早い医療・保健分野を中心に、情報通信技術(以下ICT:Information and Communication Technology)の進歩と同調するように電子コンテンツの導入を促進してきました。従来型の資料と電子コンテンツ混在の「**ハイブリッド型図書館**」をスムーズに実現できた本学の図書館は、下記のグラフにもあるように、学内はもちろん学外の方にも活発にご利用いただいています。



● 雑誌について

先に「**情報の流通が早い**」と言述した部分をコンテンツに置き換えると主に雑誌を指しており、本学図書館では重点的に予算を充てています。雑誌の収集で大事なことは継続性ですが、1980年代の「**ジャーナルズ・クライシス**」と呼ばれた時を経て、電子ジャーナル(以下EJ:Electronic Journal)やデジタルの二次ツールが出現した現在においても、洋雑誌を中心に価格は高騰しており、当然のごとくに講読タイトルを維持することは難しくなっています。電子媒体へと出版形態が変化することで出版コストが下がり、価格も連動するのでは?と訝る気持ちもありますが、そう単純でもないようです。それでもICTのさらなる進化によるアクセシビリティの向上、学術コミュニケーションや大学を取り巻く環境、館内スペースの狭隘化や管理コスト低減の必要性などを鑑みると、EJを中心とした電子コンテンツの導入は本学図書館にとって避けては通れない、むしろ積極的に取り組むべき状況にあると考えています。但し国内の雑誌は紙媒体がまだまだ主流です。母語で書かれた雑誌は紙媒体だからこそパラパラとブラウジング(拾い読み)が可能であり、その効果はEJの比ではありません。

主な購読タイトル	
医学のあゆみ	日本義肢装具学会誌
栄養学雑誌	臨床スポーツ医学
看護学雑誌	Archives of Physical Medicine and Rehabilitation
月刊福祉	British Journal of Social Work
言語聴覚研究	Journal of Advanced Nursing
作業療法ジャーナル	Journal of Texture Studies
理学療法ジャーナル	Neuropsychologia

● 電子コンテンツについて

本学では紙媒体の雑誌約950タイトルとは別にEJを約3,000タイトル契約しています。現在は、OA(オープンアクセス)と呼ばれ無料で閲覧できる雑誌タイトルも増えてきましたが、このOAも含めると本学の関連分野で約10,000タイトルのEJが閲覧可能です。

一方、電子コンテンツへのアクセスには若干のスキルが必要です。この「**若干**」というところが曲者で、ICTリテラシーの小さな格差が大きな

「**情報格差**」を誘発しています。また、Googleなどの検索エンジンは、「**コピー問題**」とともに、「**見つからない情報は存在しない**」という明らかに誤った判断も引き起こしました。現在、日本人の4人に3人はインターネットを利用するとの事ですが、このインターネット上の情報は未だ玉石混交です。本学図書館では「**学術情報**」として信頼のおけるデータを利用者に提供することを心がけています。

主な電子コンテンツ	
医学中央雑誌	SPORTDiscus
CiNii	Scinence Direct (ELSEVIER)
MAGAZINEPLUS	SpringerLink
メディカルオンライン	Wiley-Blackwell
CINAHL	Cochrane library

● 電子コンテンツ活用方法

本学では論文そのものを効率よく入手する方法として、電子コンテンツの川上から川下まで、つまり、

① **記事の特定** → ② **所蔵調査** → ③ **文献の入手**までをナビゲートする仕組みも取り入れています。「ある」のに「ない見つからない」を少なくし、利用者自らの手で情報を入手することが肝要であると考えます。

例えば和文の先行研究を調査する場合、医学中央雑誌やCiNiiなどの二次ツールを使用し、読みたい論文を検索し、特定します。次に所蔵調査です。その論文は何処に行けば読めるのか?自館にあるのか?無ければ、近隣の大学、公共図書館はどうか?そしてやっと論文の入手です。現在多くの大学図書館がEJを導入していますが、通常その所蔵の有無を調べるのは容易ではありません。EJには「**所蔵**」という概念が無く、既存の資料同様、OPACで検索されるように「**登録**」することが困難なことがその理由です。但し本学のEJに限っては、ICTをうまく活用しナビゲートしてあげることで上記3ステップがパソコン上でシームレスに実行できます。こうなると、論文入手に関し、もはや図書館までの距離や開館時間などの制約は無くなり、アクセスの利便性は高まったといえるでしょう。

しかし、繰り返しになりますが、いくら図書館側で仕組みを導入していても、利用者であるエンドユーザー側にも検索スキルが必要です。今後、学術情報の「**検索**」において、データベースやキーワードの選択、データの絞り込み方法などの「**戦略**」が益々必要になってくよう想像できます。また情報の入手がある意味では容易になったことで、情報一つ一つに対する「**重み付け**」は希薄になりました。このことを考えると、個々の情報の「**評価**」はより難しい時代になったともいえます。

● 学外の方の本学図書館利用

現在、本学所蔵資料の利用を希望される場合は、来館時にお名前等ご記入いただくことで一時的にご利用いただけます。図書の出借が可能なカードの発行については要件があります。以下のアドレスでご確認ください。(本学ホームページからもアクセス可能です。)

http://www.nuhw.ac.jp/~library/guidance_2/guidance_2.html#bbb

今年の企画として、電子コンテンツの学外からの利用(リモートアクセス)の仕組み作りや学術機関リポジトリの構築など、さらにICTを活用したサービスを考えています。後者は、地域の皆さんへの医療情報提供の必要性が大きな要因となり、実現を目指すものです。

本学図書館では収集している専門分野の学術情報を、地域の方々にも利用していただくような機会やサービスを今後とも模索していきます。どうぞご期待ください。

基礎ゼミを振り返って

医療技術学部 理学療法学科1年 石田 彩

私たちのゼミは、みんな個性的で、一人ひとり好き勝手なことを発言しては盛り上がっているとても楽しいゼミです。入学式の初対面の時から親しみやすく、安心感が得られたことを覚えています。先生も私たちに気さくに接していただき、緊張している雰囲気を和ませてくれました。

基礎ゼミの3回目にゼミ対抗のパレーボール大会を実施しました。私たちのゼミは運動部が多いので絶対に勝てる!! と思っていたのですが、ボールが繋がらず簡単に負けてしまいました。しかし、他ゼミとの交流を深めることができ、さらにチームワークの大切さを再認識する良い機会になったと思います。

毎週のゼミ活動では、ディベートを行いました。身近なテーマからさまざまな議題を決め、意見を出し合いました。最初は、お互いに遠慮したり、意見が出て説得力がなくあまり盛り上がりませんでした。しかし、回数を重ねるごとに根拠のあるしっかりとした意見が出るようになり、相手に対してわかりやすく説明することへの自信がつかしました。このディベート討論を通して、相手に伝えることの難しさや、わかりやすく伝えるにはどうしたらいいか、また意見の論理性や物事を客観的に見ることなど、私たちにとってたくさんの収穫を得ることが出来ました。そして、基礎ゼミの最後は学生と教員全員で、バーベキュー大会を行い、学生と教員との親睦・交流を深めることが出来ました。

この基礎ゼミで体験したり、感じたりしたことを糧に、自分たちが思い描いている理学療法士になるために、このゼミの仲間たちと協力し励まし合いながら夢を叶えていきたいと思えます。



ディベートのための情報収集



バーベキュー大会

医療技術学部 作業療法学科1年 小川 由貴

私のゼミ

私たち鈴木・齋藤ゼミのメンバーは中澤さん・吉澤さん・高田さん・片田君・私の5名で構成されています。一言でいうなら消極的でおとなしいゼミでしょうか。口数がとても少なく、部屋は片田君が柿の種を食べる音が響き渡るばかりです。(基礎ゼミはお菓子、飲み物を用意して行うことができます♪)基礎ゼミはまず自己紹介から始まり、2回目では2年生の先輩方が来て下さいました。先輩方から授業や大学生活について教えていただき、とてもためになりました。また、5月20日に作業療法学科の学生・教員交流会がありました。イントロクイズ、学科長の大山先生に関するクイズや担当の先生に行うトイレトペーパー速巻き競争などを通し、ゼミ内や先生方との交流を深めました。仲間たちの普段話しているだけではわからない一面を、見たり発見できたり、また先生方との距離も縮まり楽しいひと時を過ごすことができました。先程の柿の種はこの時の景品です!交流会後の基礎ゼミはあまり仕事がなく、会話も続かないためゼミが早く終了するのが私たちのスタイルです。私はゼミ長として、少しでも盛り上げようとお菓子パーティーを企画したりしました。しかし、思ったようにいきません。私はゼミ長としてあまりみんなをひっぱっていきなかつたので、申し訳なく思います。私が大学入学に掲げた目標は「自分改革」です。ゼミ長をやらせていただいて学んだことをこれからいかに、人とうまくコミュニケーションをとることができ、相手のことを考えられる人になれるよう4年間頑張りたいと思えます。



みんな必死!



クイズ考え中

親睦深めたソフトバレーボール交流会を終えて

医療技術学部 言語聴覚学科1年 相馬 良紀

わたしたち言語聴覚学科では、基礎ゼミでソフトバレーボール大会を行いました。基礎ゼミは、9つのグループに学生が分かれ、各グループに先生が一人ずつ就かれるゼミ単位の形式です。ソフトバレーボール大会のために、各ゼミから代表者2名を選出し、大会を俊敏かつ正確に遂行するための打ち合わせを行いました。大学では、先生ではなく学生が多岐に渡り動かなくてはならないと知り、やはり高校とは違うという点を学びました。

6月4日、本番を迎えました。昼休みや講義がない空き時間を利用して練習してきた成果を発揮する時が来ました。交流会実行委員を中心に準備が迅速に進められ、当初の予定時刻より早く準備が終わりました。昼食は、各ゼミに分かれて先生方と一緒に食事会を行いました。普段は「先生」という立場で私たちに指導して下さる先生と食事をする事に慣れていないせいか、あるいは本番前の緊張からか、食事が喉を通らない人もいました。各々がそれぞれの心境の中、食事会が終わりました。ついに本番、ソフトバレーは初めてという人もたくさんいました。初めてという戸惑いか、緊張か、初めのうちは体の動きが鈍い人が多々いました。私たちのグループもそうでした。しかし、時間を重ねるごとに慣れていき、ゲームを楽しむような動きをしていました。中には先生も交じってゲームをしているグループもあり、先生と学生が一体化し、眼前の相手と戦っていました。たとえゲームに出ていなくても、見ていなくても自分で自分がゲームに参加しているような感

覚になりました。それほど白熱したゲームばかりでした。ゲームがない時間は空いているスペースを利用して練習していました。私たちのグループは決勝戦を目前に1点差で負け、後悔の念が残りました。しかし、皆ベストを尽くした充実感に溢れていました。普段見ることの出来ない学生の姿や、先生の一面を見て、固いイメージだった学生や先生が親しみやすい存在に変わった人もいたと思います。

基礎ゼミでは、最初から決まっていたメンバーだったので、友達がいなかった状況からのスタートだった人もいるかも知れません。しかし少人数ですので仲間外れという事はありません。そこが少人数ゼミの良い点だと思います。早くも大学に入学して4か月がたとうとしています。ここで出会った仲間たちと残り3年半強の道のりを、一日一日を大切に、後悔のないように過ごしていきたいと思えます。そして志を同じくする仲間たちと言語聴覚士を目指して互いに切磋琢磨していこうと思えます。



昼食を共にとり、言語聴覚学科全学生と教員、学生同士が親睦を深めたソフトバレーボール大会が終わって、記念の集合写真

医療技術学部 義肢装具自立支援学科1年 石橋 英之・滝脇 勇人

義肢3期生 ~新たなステップ~

この学科は3年前に開設されたばかりの新しい学科です。最上級生が3年生生なので、まだ卒業生は出ていません。先輩たちは異なり、私たち3期生から授業は新カリキュラムとなっており、今までなかった科目や活動が加わり、新たな義肢装具自立支援学科としてのスタートを切りました。現在、義肢装具に関する学科のある大学は、全国でたったの2校しかありません。その内の1校が、私たちの通う新潟医療福祉大学であるため、全国各地から義肢装具士を目指す学生が集中します。本場に義肢装具士になりたい人たちが集まるので、授業は楽しく、真面目に取り組んでいます。この学科には早いうちから石膏やプラスチック、金属加工などの技術習得のための「基本工作実習I」という実践的な授業があり、物作りの得意な人も苦手な人もこの授業においては苦戦を強いられるに違いありません。しかしこの授業は辛いことばかりではありません。上手く材料を加工できた時は、先生たちが褒めてくれますし、上手く加工できなければ、手取り足取り教えてくれます。

また大学には「ゼミ」というグループ単位で活動する時間があります。ゼミは学科の先生一人と、学生5~6人からなるグループです。メンバーは入学式当日に知られるので、誰と一緒にゼミになるかは、お楽しみです。ちなみに私たち1年生のゼミ活動の内容は、義肢装具についての研究テーマを決め、それについて調査し、学科全体の発表会で発表するという内容です。この学科のゼミは真面目な活動だけでなく、先生と学生の交流をさらに深めるためのバーベキュー大会や、ゼミ対抗

のスポーツ大会などのイベントを組み込むことで、楽しく活動しています。私たち義肢装具自立支援学科のオープンキャンパスに対する気合いは、大学内でNo.1です。それはオープンキャンパスが開催される度に、前回とは違ったイベントや飾り付けを行ったり、季節に合わせた工夫をしたりするからです。これは他の学科ではほとんど見られません。ではなぜこの学科がそんなにオープンキャンパスに一生懸命取り組むのか。それはオープンキャンパスに何度も足を運んで下さる方にも、初めて足を運んで下さる方にも常に新しい情報や環境を設定することで、今一番新しい義肢装具自立支援学科を見ていただくことができるようにこの気持ちがかもっているからです。皆さんもぜひオープンキャンパスを見に来て下さい。大歓迎です。

私たちは、これから授業を通してさらに専門的な技術を身につけていきます。卒業後にはQOLサポーターとして社会に貢献できるよう、これからの大学生活を有意義に過ごしていきたいと思えます。



5月20日に行われた基礎ゼミのバーベキュー大会 6月20日に行われたキャンパスツアーでのヒコマ

基礎ゼミの野外炊事

健康科学部 健康栄養学科1年 渋谷 恵里

健康栄養学科では、先生方や同じ学科の学生と親睦を深めるため、海辺の森というキャンプ場へ野外炊飯に行きました。当日の朝は雲行きが怪しかったのですが、野外炊飯の時間には天候に恵まれ野外炊飯日和となりました。

野外炊飯では、ゼミごとに自分たちで考えた昼食のメニューを調理して食べたり、レクリエーションをしたりして楽しい時間を過ごしました。一時間という限られた時間の中での調理や片付け、レクリエーションを通して普段話さない人と話すことや、グループの人達と協力して作業することが出来ました。まだ私たちは「大学」という枠の中で生活しています。気が合う人と行動を共にし、気が合わない人とはあまり関わらないようにするなど、言い方がおかしいですが、関わる人を取捨選択出来ます。しかし、実際の医療の現場に立ったら職場の人や患者さんも選べません。では、今の時点で好きな人とばかり接していて実際の職場に立ったら他の人と上手く話し、チームワーク良く働けるでしょうか？ きっと出来ませんね。

私たちは将来病気の人と関わることが多くなるでしょう。それには、患者さんだけでなく医師や看護師、その他の人たちとの連携が大切になります。コミュニケーション能力が無ければ人と上手く関わっていくことは出来ません。しばしばニュースの話題になっている医療ミスが発生する背景にも、医療関係者同士の間や医療関係者と患者さんとの間でのコミュニケーション不足が挙げられます。コミュニケーション

は医療の現場において不可欠なものです。得ようとしてもすぐには得られない力だからこそ、大学生の今から身に付けていかなければいけないと思います。当初、野外炊飯は「ひとつの行事」としか思わず、軽い気持ちで臨んでいました。しかし、改めて考えてみると、チームワークやコミュニケーション能力の重要性について気付かされ、しっかりとした意義のあることだったのだと実感しました。

今回、野外炊飯に参加してコミュニケーション能力の必要性を実感することが出来ました。これから先、この大学で学んでいくにしても、将来働くにしても、コミュニケーション能力は欠かすことの出来ない大切なものだと思います。この野外炊飯で気付かされたことを基にして、これから先の大学生活でコミュニケーション能力を培っていききたいと思います。

最後になりましたが、野外炊飯を企画し運営して下さいました先生方、ありがとうございました。



調理が終わって、これから食事です!

こんなに盛りだくさんのごちそうができました

健康スポーツ学科ソフトバレーボール大会!

健康科学部 健康スポーツ学科1年 西田 聡汰

私たち、健康スポーツ学科は5月21日に学生・教員交流会として、ソフトバレーボール大会を行いました。

会場は、今年の6月に完成したばかりの第3体育館と第1体育館です。私たちのゼミでは、ソフトバレーボール大会の前週のゼミの時間にも、この第3体育館を使って練習を行い、充実した設備や機能、広さや美しさに感激しました。

大会当日の開会式では、学科の先生からのあいさつがあり、試合相手と交流会の流れを確認しました。次にゼミごとに第1体育館と第3体育館に別れ、ルールの確認や練習をした後、試合を開始しました。ルール上、コートには二人ずつしか出られないにも関わらず、健康スポーツ学科の学生ということもあり、スパイクやブロックなど素晴らしいプレーをしている学生がたくさんいて、どのゼミもレベルが高く、とても白熱した試合が各コートで行われていました。各ゼミでは先生も一緒になって試合をしたり、応援や作戦をたてたりなど、学生たちだけでなく先生も一緒になってとても盛り上がっていました。

健康スポーツ学科は人数が多く、2つの体育館に別れて試合をしたため、全てのゼミと試合をすることは出来ませんでしたが、私は今回の交流会で、ゼミのメンバーだけでなく、同じ学科であまり話したことのない人や、授業以外で先生と話す機会を持ってとてもよかったと感じました。試合はゼミごとの対戦だったため、チームワークをより一層深めることができたと思います。私のゼミはチームワークやメンバー

ひとりひとりの活躍はあったのですが、残念ながら勝利することができませんでした。それでもとても楽しく、そしていい試合が出来たと思います。また、私たちが授業で学んだ、レクリエーションの概念の一つである、人と人とのかかわりを豊かにする、という点も体験できたように感じました。

入学し、大学生活にもやっと慣れ始めた時期での交流会だったので、この会を通じて先生や学生同士の親睦を深めることができ、これからの大学生活をより充実させるきっかけになったと思います。とても楽しく、白熱した交流会でした。



決勝戦の様子

基礎ゼミ全体会の思い出

健康科学部 看護学科1年 久賀 美里

私達が入学して間もない頃、基礎ゼミ全体会が開かれました。学生同士はもちろん先生方との交流を深めるために開催され、担当の先生を含めた各ゼミ対抗で様々なゲームを行いました。それまで、ゼミのメンバーには一回5分程度ひよっと会ったことしかなかったのでとても緊張したことを覚えています。

特に心に残っているゲームは、「先生探し」と「ボールまわし」です。先生探しとは、封筒の中に先生の名前が書かれた紙が入っていて、その紙に書いてある名前と同じ先生から、サインをいくつもらって来れるかを競うゲームでした。まだ初めの頃というもあり、先生方の名前がわからない...と思ったのは私だけではなかったはず。手分けして探しますが、なぜか気が動転して先生方に全く話しかけずに終わったことを覚えています。交流会なのに緊張して交流できないという何ともいえない結果に終わりました。

次にボールまわしですが、このゲームは各ゼミ一列に並び、頭の上と股の下でボールをまわしていく、というゲームでした。最初はモタモタしながら始まりましたが、そのうち作戦を立て始めたり、悪知恵を働かせ始めたり、と素晴らしいチームワークを発揮し始めました。最後のゲームということで、賞品もかかっていたのでみんな一生懸命でした。ですが、その頃にはゼミ内だけでなく、ゼミの枠を超えてみんなと一緒に笑いあえるような仲になっていたと思います。この時間は私達にとってとても価値ある時間でした。

今でこそみんな仲良しですが、やはり初めは壁があったと思います。その壁を取り除ききっかけになったのがこの基礎ゼミ全体会だと思います。これから4年間一緒に頑張っていく仲間です。この小さなきっかけから、支え合い、励まし合って、お互いを高め合える仲間になりたいと思います。同じ夢をもつ88人、これからも力を合わせて頑張りたいです。



ボール回しの様子



絆も深まりました!

仲間との出会いそして基礎ゼミ交流会

社会福祉学部 社会福祉学科1年 松崎 瞭 他

学生生活への期待

大学に入って一番の楽しみはいい友人を作ることでした。オリエンテーションで大学の校内に集められた先にはたくさんの方がいました。あまりの人の多さに圧倒されたことは今でも覚えています。その中で親友といえる人に出会うことの期待に心が震えました。また、新たに始まる大学生活も大きな期待でした。大学生活は自由だと言われますが、その中で自分の歩く道を見出していかなければなりません。いろいろな期待を胸に大学生活が始まりました。

基礎ゼミの仲間と出会う

私が基礎ゼミの仲間たちと出会ったのは入学式の顔合わせのときでした。初めて会った時はこれから仲良くできるか不安でした。でも、やさしそうな先生が緊張している私たちをリードしてくれて、話しやすい雰囲気を作ってくれました。それから水曜三限、週一回の基礎ゼミがはじまりました。基礎ゼミではみんなで話をしたり、お昼ごはんを食べに行ったりしました。ダチョウ見学をはじめ色々なところへ行きました。先生がとてもいい先生で私はこのゼミでよかったなと思いました。そんな週一回の活動で私たちは仲良くなっていったと思っています。

基礎ゼミ交流会に参加して

6月3日に行ったゼミでのバーベキューはとても楽しかったです。当日は雨も降らないで暑くもなく寒くもなくちょうどいい気候でバーベキュー日和でした。私のゼミでは、肉を焼く他に、焼きそばともんじゃ焼きも作りまし

た。特にもんじゃ焼きは、めんたいもち・チーズを入れて作りました。そのもんじゃ焼きがとても美味しく感動しました。やっぱり、大人数で外で食べるのは美味しいなと感じました。



あと、バーベキューの後でゼミのメンバーみんなでフリスビーをしました。あまり上手く投げられなかったのですが、みんなと遊べたので楽しかったです。私は今回のバーベキューでゼミのメンバーや先生と楽しく交流することができました。今のゼミのメンバーとは前期だけという短い間だけでしたが、私はこのゼミのメンバーでよかったなと思ったし、今回の交流活動はとてもいい思い出になりました。

これから

今後私たちの基礎ゼミでは、自分たちでなにをしたいのかを考えて、より自立した考えができるような活動をしていきたいです。この基礎ゼミは前期で終了してしまう短い集まりでしたが、今後もこの集まりで交流を深めていきたいと思っています。また、他の基礎ゼミとの交流も深めていきたいと思っています。このように色々な交流を深められたらいいと思いました。もう少しで終わってしまうこの基礎ゼミで最後に大きな活動をしたいし、今後につながる何かを手にとりたいと感じています。ゼミのメンバーからは「この基礎ゼミのメンバーでほんとによかった!」という声も聞かれました。

戦略的大学支援事業 共生型大学連携 包括的施策 連携教育学生セミナー開催報告

8月17・18・19日の3日間、平成20年度に文部科学省に採択された戦略的大学連携支援事業(代表校:新潟青陵大学)の今年度事業として、共生型大学連携 包括的施策 「連携教育学生セミナー」が開催されました。この事業は、本学を含む新潟県内で保健・医療・福祉専門職の養成を行っている7つの連携校が、チーム医療・専門職連携を実践的に学ぶ目的で企画されたもので、県内の10病院・施設にも実習地としてご協力いただき、大変成果のあるセミナーとなりました。今回その取り組みの様子をご紹介します。

■連携教育学生セミナー実施概要

日時: 8月17・18・19日(3日間)

参加大学: 新潟青陵大学、新潟大学、敬和学園大学、新潟薬科大学、明倫短期大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟医療福祉大学

会場: 新潟大学医学部有壬記念館

実習協力施設:

こぶし園(長岡市)、上村医院(魚沼市)、押木内科・神経内科医院(新潟市)、堀川内科神経内科医院(新潟市)、新潟リハビリテーション病院(新潟市)、総合リハビリテーション病院 みどり病院(新潟市) 独立行政法人国立病院機構 西新潟中央病院(新潟市)、新潟県立津川病院(阿賀町)、新潟県立新発田病院(新発田市)、新潟県立リウマチセンター(新発田市)

スケジュール:

1日目(8月17日)

・英国連携教育推進センター副センター長 ヘレナ ロウ先生による講演・指導

・グループワーク(事例の予習・実習準備)

2日目(8月18日)

・グループ毎に分かれ、県内の各実習協力施設、患者様宅などを訪問。

予習・準備に基づき、病院施設スタッフ・患者様へのインタビュー

3日目(8月19日)

・グループ別事例検討・ポスター作成

・発表

・ヘレナ ロウ先生による総括



他職種との連携のあり方やチームアプローチを学ぶための「連携教育学生セミナー」開催

連携教育推進会議 学生セミナー部会長 金谷 光子(看護学科 准教授)

本セミナーは、戦略的大学連携支援事業「共生型大学連携」企画の一つとして、8月17・18・19日の3日間を通して行われ、新潟の保健医療福祉を学ぶ7大学の学生45名(一部他県の医学生を含む)、教員は7大学28名の参加がありました。

本セミナーの目的は、「保健医療福祉分野において、ケアを受ける人のQOLを高めるために、連携教育により、ケアを提供する医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・歯科衛生士・ソーシャルワーカー、その他多くの職種を目指す学生が、将来行なわなければならないチームアプローチの演習を卒業前に行なうことで、「チームアプローチ」という新しい能力を供えた質の高い卒業生を送り出すこと」にあります。

このような専門職間連携教育(IPE:Interprofessional Education:以下IPEと記す)は、イギリスで2000年に起きた心臓外科医たちの実験的な医療の問題、また、2001年、連携不足から被虐待児が死亡した事件をきっかけに、多職種が連携の意義を学び、また連携を体験しながら学ぶという新しい教育方法として開発がなされてきました。つまり、IPEとは、それぞれの専門職を目指す学生が、お互いについて、お互いから一緒に学ぶことで保健医療福祉分野の理解を深め、それぞれの専門職について知り、さらに自らの専門職としての専門性を高めるといえるものです。

本学の連携教育は、これまでに国内外から多くの講師を招き、また本学の教員がIPEを実践している国内外の大学に赴き連携教育のあり方を学ぶという方法を取り入れてきました。今回の学生セミナーにも、イギリスより英国連携教育推進センター副センター長のヘレナ ロウ先生をお招きし実施いたしました。

●第1日目

学生はヘレナ ロウ先生から、英国における連携教育の理念と実際に学

び、引き続き提示された一つの事例について、チームアプローチという視点からグループワークに取り組みました。午後より、多職種を目指す学生同士が5~6人のグループに分かれ、参加大学の教員がファシリテーターとなり、翌日に実習地で出会う予定のそれぞれの方々の方々の事例を通して連携という視点からグループワークを行ないました。

●第2日目

学生及び教員は、それぞれの病院・施設のスタッフ・患者様、及び在宅患者の方々との対話を通して、対象となる方々のQOLとは何かを考えるために10ヶ所の実習地へと移動しました。

ここで学生は、実際に患者さんや在宅で療養されている方々と直接会って対話し、ケアの対象となる方々の病気に対する思いや大切にしてきたこと、環境などを知って、昨日まで学生たちが描いていたケアの方向性について多職種との連携という視点から再考していく機会となりました。また、病院・施設のスタッフとの対話からチームアプローチの実践を学び、さらに経験の少ない学生なりの学問的な背景から発想されるケアの内容に対して、スタッフから専門的な助言を受けるという貴重な体験もすることができました。

●第3日目

学生たちは2日間の学習を通して、ケアの対象であるそれぞれの方々にとってのQOLとは何か、そして望ましい援助のあり方について、多職種との連携という視点からディスカッションを行うことで、最終的に一つの方向性を提案することができました。また、提案についてヘレナ ロウ先生から総評をいただき、最後にヘレナ ロウ先生から学生に修了証が手渡されました。

今回の「連携教育学生セミナー」のために快くご協力をしてくださった方々及び実習地の皆様に、こころよりの感謝と共にお礼を申し上げます。

「第1回スイスイ子供水泳教室」を開催

8月18日(火)~21日(金)の4日間、ハビスカとよさかと新潟医療福祉大学健康スポーツ学科が協力し、新潟医療福祉大学屋内プールにて「第1回スイスイ子供水泳教室」を開催しました。

この教室は、水泳の練習や遊びを通じて、友達と触れ合ったり、自分のできないことに挑戦することにより、「コミュニケーション能力」「問題解決能力」を高め、「生きる力のある子供」の育成を支援することを目的に行われました。

当日は、新潟市北区・中央区および新発田市在住の小学校1年生から5年生15名が参加し、健康スポーツ学科教員と本学大学院生が教室の企画運営および水泳指導を行いました。

非日常的な運動である水泳では、水への恐怖心から水泳嫌いになる子供が多いのが現状です。今回参加した子供たちも、初心者が多く、初回のレッスンでは水への恐怖心から体を硬直させていましたが、少しずつ出来ることが増えていくうちに自分から練習するようになっていました。

最終日の4日目には教えていないことに挑戦する子供も現れるなど、出来なかったことが出来た時の子供たちの笑顔と真剣な眼差しがとても印象的で、また保護者の方々からは、来年度もこういった企画を続けてほしいというお言葉をいただくなど、とても有意義な教室となりました。

健康スポーツ学科では、今後も本学運動施設

を有効に活用し、「生きる力を持った子供の育成」「地域住民の健康増進」を目指します。



医療福祉職求人説明会開催

8月21日(金)本学において、「医療福祉施設求人説明会」が開催されました。今年は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士(栄養士)、医療相談・生活相談員職、精神保健福祉士、看護師の採用を検討している医療福祉施設、72施設146名の採用担当者をお招きし、3・4年生約300名が参加しました。当日は高橋榮明学



長、就職センター長藤巻健一准教授による挨拶に続き個別ガイダンスを実施しました。採用担当者からは当該施設の説明や本学学生からの質問に丁寧にお応えいただき、「学生に活気があり、とても礼儀正しかった」「職員確保が難し

い折、こういう機会ありがたい」と好評をいただきました。また参加した学生からは「家の近くの施設が来ていて良かった」、「病院の特色が大変よくわかった」、「OB・OGが来られて現場の音が聞けてよかった」などの意見があり、就職活動が本格化するにあたって、病院・施設に関する詳細な情報が得られたとともに、今後の進路に向けて大きな収穫を得ることのできた大変有意義な機会となったようです。

(本学アンケートより)

本学最大のイベント!「オープンキャンパス2009」が行われました!

7月18日(土)、8月8日(土)、9月5日(土)、「オープンキャンパス2009」が開催されました。高橋榮明学長の挨拶からはじまったオープニングプログラムでは、恒例の在学生へのインタビューが行われ、参加者からは在学生の生の声が聞けるとあって大盛況でした。

また、2010年4月新設の医療情報管理学科を含む全9学科による「学科別説明会」をはじめ、フリープログラムでは、本学の特色や入試について

説明する「大学概要・入試概要説明」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」そして、各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に、オープンキャンパスの醍醐味! 40種類以上にも及ぶ体験プログラムでは、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある複数の学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができたようです。ま

た、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子やサークル活動についてなど、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に知っていただくことができました。

本年度のオープンキャンパスは、これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施していますので、機会があれば是非一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。

第9回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

今年度の学術集会は、テーマを「医療関連職の未来」とし、めまぐるしく変化する社会情勢の中、理学療法士、作業療法士等の医療関連職は、将来に向けてどのように進むべきかについて考えることを狙いとしております。また特別講演として、「医療関連職が果たすべき今日的課題」と題し、大阪府議会議員 理学療法士 ながの聖(きよし)先生に講演を行っていただく予定です。参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

第9回新潟医療福祉学会 学術集会

日時: 平成21年10月31日(土)
会場: 新潟医療福祉大学 大講堂
会長: 新潟医療福祉大学 医療技術学部作業療法学科 学科長 大山峰生
プログラム(予定): 9:30~ 学会会頭挨拶 学会長挨拶
9:45~ 一般演題: 口述セッション
11:30~ 一般演題: ポスターセッション
12:30~ 昼食
13:30~ 新潟医療福祉学会総会
14:00~ 特別講演
15:00~ シンポジウム

学友会

第9回伍桃祭(大学祭)案内

「SMILE」

～笑う門には福来たる～

今年の伍桃祭では、今まで築きあげられてきたものをさらにもう一
段階ステップアップし、より一層よいものにしよう企画しています。ま
た、学生だけでなく多くの地域の方々も参加できるイベントを企画して
います。

会場に来た多くの方が笑顔になれるように、今年のテーマは「SMI
LE」にしました。笑う門には福来たるという言葉にもある通り、笑顔に
なれば、幸せになれる!という考えから、このテーマを選びました。さらに
今年の伍桃祭では、地元中学校の吹奏楽や、小学校のマーチング、
さらには体育館でのスポーツイベント、中央福祉会様などによるフリー
マーケットなど、地域の方々も参加できるイベントが盛り沢山です。

その他にも多くのイベントがあり、多くの模擬店が立ち並びます。昨
年に引き続き、「eco」にも率先して取り組んでいきます。伍桃祭がより
地域密着型のお祭りになるようにしていきたいと思ひます。みなさん、
伍桃祭で、「笑顔」を見つけてみませんか?

10月3日(土)・4日(日)、新潟医療福祉大学で、たくさんの方のご来場を
お待ちしております。

第9回伍桃祭実行委員長 桐山 渉

第9回 新潟医療福祉大学「伍桃祭」

- 「LOTS the よしもと」による
お笑いライブ
- 「カナデフウビ」によるライブ
- 「酒井杏さんと倉井夏樹さん」による
スマイルコンサート
- 部活・サークルによる発表
- 模擬店
- 学科対抗パフォーマンス大会
- Ms.&Mr.発表
- フリーマーケット

10/
3日・4日

この他にも、笑顔になれるイベントが満載です。ぜひ、お越しください。
大学祭HP:<http://nuhwgotousai2009.web.fc2.com/>
本学HPイベント情報:<http://www.nuhw.ac.jp/event/festival.html>



受験生のみなさんへ

■募集学科・募集定員(1年次)

理学療法学科	80名	作業療法学科	40名
言語聴覚学科	40名	義肢装具自立支援学科	40名
健康栄養学科	40名	健康スポーツ学科	100名
看護学科	80名	社会福祉学科	120名
医療情報管理学科	80名		

■入学試験日程

入試区分	学 科	出願期間	試験日
A O 入 試	全学科	受付終了	第1次9/12(土) 第2次10/17(土)
推薦入試	公 募 推 薦	全学科	10/28(水)~11/5(木) 11/14(土)
	スポーツ自己推薦	健康スポーツ学科	前期10/28(水)~11/5(木) 後期12/1(火)~12/15(火) 前期11/14(土) 後期12/19(土)
	特 別 推 薦	医療情報管理学科	12/1(火)~12/15(火) 12/19(土)
3年次編入試験	①健康スポーツ学科 ②看護学科	受付終了	①10/17(土) ②9/12(土)
社会人等特別入試	全学科	10/28(水)~11/5(木)	11/14(土)
センター試験利用入試(前期)	医療情報管理学科 を除く全学科	1/6(水)~1/22(金)	1/16(土)・17(日)
センター試験利用入試(後期)	理学療法学科 言語聴覚学科 健康栄養学科 健康スポーツ学科 看護学科	2/8(月)~2/19(金)	
一般入試(前期)	全学科	1/6(水)~1/22(金)	2/2(火)
一般入試(後期)	全学科	2/8(月)~2/19(金)	3/2(火)

入試トピックス

一般入試(前期)と一般入試(後
期)の試験会場が増えました!

一般入試(前期)の試験会場はこ
れまでの新潟・東京・郡山・高崎・長野
・富山に加えて、今年度は新たに山形
・県鶴岡市にも試験会場を設置し、全7
会場で実施します!また一般入試(後
期)の試験会場は、新潟・東京に加え
新たに「郡山」も加わ
り、受験の機会がさら
に広がります!



イベント案内

■キャンパスツアー

- 第3回 / 10月 3日(土)
- 第4回 / 11月 3日(火・祝)
- 第5回 / 12月12日(土)

大学概要説明、入試概要
説明はもちろん、施設見学、
個別相談コーナー等充実の
プログラムを用意しています。
受験準備も後半戦に入る10
月、11月はいよいよ一般入試
に向けて、代々木ゼミナール
講師による英語対策講座、
12月にはプレ入試を実施す
る予定です。また10月は本学
大学祭である伍桃祭が同日
開催となりますので、この機
会にぜひご参加ください。

入試やイベント情報等、詳しくはホームページをご覧ください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町 1398 番地 TEL025-257-4455 (代) FAX025-257-4456

URL <http://www.nuhw.ac.jp/> 携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>

【入試事務局】TEL025-257-4459 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp



誌名「QOLサポーター新潟」の由来 世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life、QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポーター)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。